

ヒット商品は
こうして生まれた!

ヒット商品を支えた知的財産権 [vol. 96]

ラブリコ LABRICO



〔商標登録〕第5976329号
〔意匠登録〕第1570787号ほか

人それぞれの 生活空間を実現する DIYのアイテム

平安伸銅工業株式会社が2016年に発売した「ラブリコ」は、ホームセンターなどで販売されている2×4材など、規格木材の両端にはめ込んだパーツで床と天井の間に突っ張り、柱や棚、間仕切りを自在に設けることができる優れたものだ。同社は1975年に「突っ張り棒」を世に出して以来、防災用の家具を固定する「突っ張り棒」など、機能性の向上を図ってトップシェアを誇ってきた。退去時に原状回復が求められる賃貸物件でも天井や壁を傷つけずに、思うままに室内のレイアウトがで

き、家具にもなるラブリコは、ライフスタイル 提案型に進化した突っ張り棒とみることができる。

開発のきっかけは、2015年に三代目社長に就任した竹内香予子さんが、自らの新居の家具選びで、これと思う家具のサイズが間取りに合わない経験をしたことだったという。それぞれの人の暮らしに

合う家具を作れたら、という思いから、ジャッキタイプの「突っ張り棒」の技術を応用することを思いつく。家具を作るという発想から木材を利用し、その両端を固定する部分が製品化された。規格木材は安価なうえに入手が容易なだけでなく、用途や場所に合わせて好きな長さに店頭で切ってもらえるので、ユーザーの自由度が高くなる。重視したのは、DIY (Do It Yourself) の経験や技術のない人でも簡単に利用できる製品とすることだ。

いざ製品化しようとした時、竹内さんのイメージが開発部スタッフにうまく伝わらなかったことから、同社は初めてプロダクトデザイナーを採用した。そこからはスムーズに構想が形となった。これを機に、耐荷重を追求するなど技術寄りだった同社の製品開発体制も、暮らしのデザインを提案する方向に変わってきた。ラブリ



使用イメージ

コを発売した2016年には、デザイン性に加え、容易に空間をコーディネートできる点が高く評価されて「グッドデザイン賞」を受賞している。

とはいえ、完成品ではないため、発売当初はホームセンターに置いてもらうのもひと苦労だったと、同社開発部広報の内藤紗希さんは振り返る。DIY関連の雑誌やウェブサイトなどに情報を流したり、サンプリングを行い実際に使ってもらってその利用例を同社のSNSで紹介するなど、メディアやSNSを活用した広報戦略に力を入れた。「ユーザーのいろいろな要望や、思いがけない活用法を知ることができ、そうした情報を活かした新しいパーツも生まれています」という内藤さん、ラブリコで自宅に壁面収納をつくったそうだ。「思っていたより早くできて、自分のテイストに合わせられる自由度も実感しました。自分自身で体感することで広報にも力が入ります」と笑う。

ラブリコはDIY熱の高まりと共に、その画期的な機能でマスコミにも注目されて売上げを伸ばし、今では同社を支える柱の一つとなっている。現在ではラブリコのブランド名で「暮らしづくりのパーツ」として、さまざまなアイテムを展開している。ラブリコという親しみやすいブランド名は、ラボラトリー（研究・開発）とブリコラージュ（日曜大工）を合わせたもの。当初はヨーロッパで一般的なDIYのイメージから、ブリコラージュに近い名称が検討されたが、愛されるかわいい印象のある音として「ラブ」を入れた。ユーザーの中には「ラブちゃん」と呼ぶ人もいるとか。

同社が蓄積してきた技術と、新たなアイデアによって生まれたラブリコのブランドを守るために「知財は重要」と内藤さんは言う。「技術者が頑張って考えたもの」というだけでなく、品質の悪い類似品があると、お客様に迷惑をかけることになります。今はあつという間に類似品が出るので、社内で知財への意識を高めるように力を入れています」とも語っていた。



シリーズ JAPAN

特産品

美浜のへしこ

商標登録番号：第6156333号



販売を行っており、日本における鯖のへしこの産業集積地となっています。

「美浜のへしこ」は、塩とぬかだけでなく、みりんや醤油、酒粕、魚醤などを加え、1年間じっくりと発酵させるなど、各家庭や製造元で秘伝の製法があり、うまみが強く味がまろやかといった特徴があります。

当商工会の管轄地域である美浜町と若狭町は、こういった日本海の若狭湾特有の食文化以外にも、三方五湖で捕れるうなぎや里山のジビエといった海、山、川、湖の新鮮な食材と食文化がある地域となっています。

当商工会としては、今回の登録を機会として、地元企業や住民が地域の良さや食文化を再認識し、来る北陸新幹線の敦賀延伸やインバウンド（外国人観光客）の拡大に向けて、地域がますます盛り上がっていくことを期待しています。

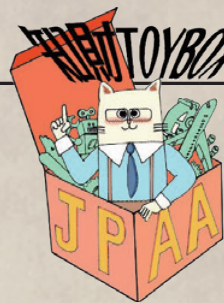


●地域団体商標とは
地域ブランドとして用いられることの多い「地域名」と「商品（サービス）名」の名称等からなる文字商標（地域団体商標）について、登録要件を緩和し商標登録を可能とする制度。地域の特産品等について、他地域との差別化を図り、地域のブランド化を促進することなどを目的としています。2019年5月末時点で、658件が特許庁に登録されています。

このコーナーに掲載御希望の方は、「特産品」のプロフィール・連絡先を右記までお送りください。

Fax 03-3519-2706
Mail panf@jpaa.or.jp

知財 TOY BOX 第20話

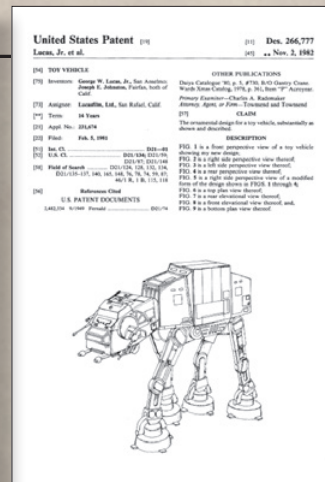
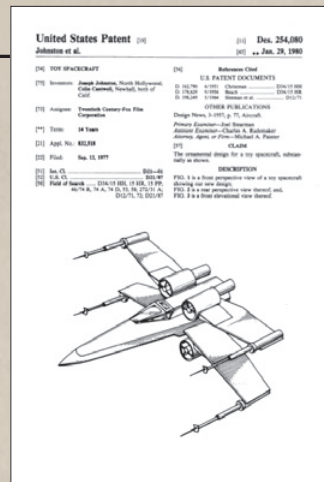


「スターウォーズ」

映画「スターウォーズ」(1977年)の脚本・監督を手掛けたジョージ・ルーカスは、その後、自らの資金で続編を製作し、全6編の一大スペースオペラを完成させました。その資金を作るために役立ったのはマーチャンダイジングライト、すなわち商品化権でした。

ルーカスは、その権利を守るため、積極的に米国特許法上のデザインパテント（意匠）を活用しています。右に挙げたXウイング (USD254080) やAT-AT (USD266777) の他、タイファイター (USD254081)、スノースピーダー (USD267025)、Aウイング (USD277200) などが玩具として登録されています。

(弁理士 中川裕幸)



知っておきたい！この技術

トレンドてっく

筋電義手

体内で発生する微弱な電流をスイッチとして、開く、握るなど手の動作を可能にするのが筋電義手である。脳からの指令が神経を伝わって筋肉に達した時に、電気信号（筋電）が筋肉の膜を伝わり、筋肉を収縮させて手を動かす。この筋電を皮膚に付けたセンサーで感知し、人工知能 (AI) を含む最新の情報技術を活用した筋電義手は、日常生活に必要な手の機能を獲得できるとして注目されている。手を動かす筋電は、先天的あるいは後天的に手や腕のない人でも発生するという。現段階では手の動きをすべて実現できるわけではないが、物をつかむ、はなす、ペットボトルのふたを開けるなどの動作ができ、ユーザーが自分でできることの範囲は大きく広がる。

筋電のパターンは個々に異なるので、ユーザーごとに読み取り、AIに学習させる。スマートフォンのアプリで手の動作パターンを設定するものもある。課題だった軽量化、コスト低減は3Dプリンターの活用でかなり進んだ。さらに手を動かす小型モーターの軽量化、内蔵するマイクロコンピュータや電池の小型化と容量アップで、より軽量で低コストの製品を実現すれば、子供を含む多くの人のQOL（生活の質）向上に貢献できるだろう。



シリーズ
38